

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175300409		
法人名	株式会社 ワークサポート		
事業所名	グループホーム あさひ		
所在地	紋別郡遠軽町大通南2丁目1-21		
自己評価作成日	平成25年1月29日	評価結果市町村受理日	平成25年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の尊厳を重んじ、その人らしく暮らせるための提案、相談をし認知症により意思伝達が困難な場合においても、意向や思いを探る努力をすることで、入居者の方々が安心、平穩に生活ができるよう支援していく。また、商店街の中に立地されているため、商店街の方々と交流が図れるようイベント等の参加を積極的に行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [/index.php?action.kouhyou_detail.2012.022.kani=true&JigvosvoCd=0175300409-0](http://index.php?action.kouhyou_detail.2012.022.kani=true&JigvosvoCd=0175300409-0)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成25年3月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

遠軽町中心部の商店街に位置している2階建て2ユニットの『グループホームあさひ』は、交通の便が良い地域で家族が立ち寄り易く、地域住民とも交流し易い環境となっています。理念に「笑顔あふれる暮らし」を掲げ、施設長、管理者、職員間で浸透が図られており、利用者一人ひとりの気持ちに寄り添い、心豊かな毎日が送れる様にと取り組みを重ねています。利用者への基本的なケアサービスを運営推進会議の議題として取り上げ、認知症の理解を促すと共に、職員も基本に立ち返り日々の業務の確認に繋げ、サービスの質の向上に努めています。又、今年度は職員が交替で外部研修に数多く参加し、報告を兼ねて内部研修で共有を図り職員各自の資質向上を目指した取り組みを行っています。事業所内は明るく開放感があり、温度、湿度等にも配慮し利用者が安全で安心して暮らせるような支援に取り組んでいます。利用者職員、職員同士のコミュニケーションが良く取られており、事業所内は明るく和やかな雰囲気となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔あふれる暮らし」を理念に掲げ、その人らしく生活してもらう為、スタッフ間で情報を交換・共有してケアの統一を図るよう勤めている。	理念を玄関、各事務所に掲示すると共に会議時に確認しながら、利用者一人ひとりの気持ちに添った支援に努め、笑顔あふれる暮らしの実現に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、清掃活動やイベント等にも参加している。また、利用者と共に近くの公園に散歩することもあり、顔見知りのもできています。	商店街に立地しており、散歩時や買い物時に顔馴染みとなり、挨拶を交わし交流に努めています。町の祭りや、商店街祭りは利用者の楽しみとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所に、地域の方から相談がある時は知っている限りの情報を提供し、力になられるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度開催できるよう努め、施設の状況・行事等の報告をする。出された意見を真摯に受け止め次の取り組みに活かせるように努めている。	概ね2ヵ月毎に開催し、状況報告や、意見交換等に努め、議事録は全家族に配布し、職員にも回覧して情報共有しサービス向上に活用しています。今年度は五つの基本ケアを議題として取り上げ、認知症の理解に繋がっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所・入居者の事で個人的に相談する機会を設けている。	行政とは、事業所イベント時に物品を借用したり、運営推進会議には行政職員の参加を得ており、情報交換や相談等連携しながら、サービスの質の向上に繋がっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯防止上の関係から玄関の施錠はするが、早朝には開錠し、日中は安全面に配慮しながら、自由な行動が取れるように見守りしている。	外部研修に参加し、内部研修で共有を図りながら理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関の施錠は夜間のみとし、見守りで利用者の安全確保に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会に参加したり、勉強会を開催して、スタッフ間で情報を交換するなどして、見過ごすことのないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとにスタッフへ説明をしている。対応が必要と思われる利用者があるときは、随時説明・アドバイスを行い、支援に結びつけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとり、疑問には納得するまで説明し、事業所の主旨を理解してもらい同意が得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、面会時等の会話に耳を傾け、出された意見を真摯に受け止め、今後の運営に反映させていく。	家族訪問時には介護主任が状況を説明し、何でも言って貰える関係を築いています。寄せられた意見や要望は会議にて話し合い、解決や実現に向けて取り組んでいます。2ヵ月毎にホーム便りを発行し、毎月利用者2名ずつ生活状況を手紙で知らせています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティング・勉強会を開催している。また、日頃からコミュニケーションを取るよう心がけ、意見・提案に耳を傾けている。	施設長、管理者は2ヵ月毎の全体会議や毎月のユニット会議時に職員の意見や要望を受け止め、職場環境改善や運営に活用しています。外部研修参加を促し、内部研修を実施して、職員のスキルアップとサービス向上に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	疲労やストレスの要因について気配り、勤務時間中にも気分転換出来る様休憩室を確保したり、職員同士の人間関係を把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には多くのスタッフが受講できるようにしている。また、研修内容を報告する機会を設け、受講できなかったスタッフにも学んでもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の勉強会や研修会に参加、交流を持つことにより、サービスの質の向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態の把握に努め、不安や困っていることを理解し、利用者の気持ちに寄り添い、受け入れられる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前見学をしてもらったり、ご家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応ができるか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況等を確認し改善に向けた支援の提案・相談を繰り返し、柔軟な対応を行い、他のサービス利用も考慮して支援に繋げるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや苦しみ、不安・喜び等を知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係作りに留意している。利用者は人生の大先輩であるという考えをスタッフが共有し、教授する場面作りに配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添い、日々の暮らしの出来事や気付いた情報を共有することに努め、一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝える。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が会いに来てくれたり、自由に電話をかけたり、継続的な交流ができるように働きかけている。	以前通っていた老人クラブ等の友人が訪ねて来た時は歓迎し、馴染みの理・美容室に出掛けたり、入居の際には自宅の雰囲気継続に配慮したりと、これまでの暮らしの継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談にのったり、皆で過ごす時間や気の合う者同士過ごせる場面を作るなど、利用者同士の関係がうまくいくように、スタッフが調整役となり支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、必要に応じて相談や支援に関わっていくことを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何処で、どのように暮らすことが最良なのか、言葉や表情など、日々の関わりの中で気付けるよう努めている。	施設長、管理者、職員は利用者との会話や様子等日々の関わりの中から希望や意向の把握に努め、その人らしい暮らし方が出来る様、支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取り、生活歴を把握することに努めるが、プライバシーに立ち入ることでもあるので、理解してもらえるよう配慮し、了承の上ですべてしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活・心理面の視点や、できないことよりできることに着目し、その人全体の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から思いや意見を聞き、情報を共有し、意見交換してケアの統一を図るよう努めている。	利用者、家族の意向を取り入れ、医療関係者のアドバイスや、職員の意見を取り入れた介護計画を作成し、定期的に見直しを図っています。生活記録には介護計画が添付され、ケアプラン実施確認欄を届け、プラン見直しと、作成に活用しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、水分・排泄・食事量等身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉・エピソード等を記録している。勤務に就く前には記録の確認を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族が安心して暮らせるよう、ニーズには柔軟な姿勢で対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らせるよう、民生委員と意見を交換する機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を聞き支援している。日頃の状況を報告し、適切な医療が受けられるように努めている。	利用者の健康管理に注意を払い、希望するかかりつけ医と連携を取りながら支援に努めています。訪問看護や月に2回の往診を利用し、適切な医療が受けられる様配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは関わる中で、日頃の健康面や医療面の情報を訪問看護師に相談、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援に関する情報を医療機関に提供し、入院によるダメージを極力軽減できるよう医師と話し合いの機会をもち、事業所内での対応可能な段階で早く退院できるよう、家族とも情報交換しながら退院支援に繋げている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者や家族の意向を踏まえ、早期から話し合い機会をもち、方針の統一を図り、事業所が対応しうる支援の共有、医療機関と連携しながら取り組んでいる。	医療機関の体制が整っておらず、看取り介護は実施していない状況ですが、入居時に事業所で出来る範囲を伝えていきます。管理者・職員は研修に取り組み、対応に備えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変・事故発生時に備えて、応急手当の訓練を定期的に行っている。また、医療機関とも密に連携を図り対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーの設置、定期的に避難訓練を実施、救急救命講習を受講するなど緊急時に備えている。また、避難マップを作成し、避難所や医療機関が把握できるよう工夫している。	消防署の協力を得て年2回夜間想定での避難訓練を実施しています。訓練は職員全員が体験出来る様配慮し交替で実施しています。緊急連絡網を作成しており運営推進会議に報告を行っています。	様々な原因で起こる火災対策として自主点検の実施や避難時の近隣住民との協力体制構築に加え、地震・断水・停電等火災以外の災害に対してもマニュアルや備蓄品の整備、検討等更なる対策強化を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であることを自覚し、言動にも注意し、プライバシーに配慮した対応を心がけている。	職員は利用者の人となりや生活歴を把握し、尊厳を傷つけないよう言葉かけ、対応に注意を払っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めたことを押し付けるのではなく、複数の選択肢を提案して、自分で決める場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重し、できるだけ個別性のある支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは自己表現の一つであり、本人の好みで整えられるような支援を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物を献立に取り入れたり、調理や盛り付け、片付けを利用者と共に行い、楽しく食事ができるよう雰囲気作りにも配慮している。	ユニット共通の献立を調理担当職員を配置して、利用者と職員と一緒に食事の準備、後片付けを行なっています。食事を共にすることで利用者の好みを把握し、選択性の特別食等献立に反映させています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に記録して、摂取量を把握し、その人に合わせた提供ができるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に合わせた口腔ケアができるよう、一人ひとりの状態を把握し支援に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、尿意のない利用者には時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。また、その人に合わせてパット・リハパンを使い分けている。	排泄チェック表を通じ利用者一人ひとりのパターンを把握し、生活リズムや体調に添った支援に努め排泄の自立に繋げています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・食事量・運動など利用者に応じた予防に取り組む、自然排便ができるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望やタイミングにあわせ、スタッフの都合で決めることの内容、ここにそった支援を心がけている。	利用者一人ひとりの状況に合わせて、週2回以上の希望に添った支援に努めています。また、拒否する利用者には、タイミングを見ながら時間をかけて入浴を促しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、その時々状況に応じて、安心して気持ちよく眠れるよう声かけや環境にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、スタッフが内容を把握できるようにしている。服薬時は複数のスタッフが確認してから本人に渡す、もしくは介助にて服用してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の得意な分野で力を発揮できるよう支援している。また、レクリエーションや散歩など本人の楽しめることで、気分転換を図れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や楽しみに合わせて、散歩や買い物など、利用者に合わせて支援している。	天候や、利用者の体調等を考慮しながら、散歩・買い物・床屋・ドライブ等、積極的に外出機会を設け、利用者の楽しみとしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額のお金を持っている利用者もあり、趣味や嗜好品の買い物に付き添ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出したいと言われた時、電話をかけたいと言われた時、本人の要望に添い支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理する音や匂い、食器を洗う音など家庭でも聞こえていた日常的な音や匂い、お寿司や鍋料理など、五感や季節感を意識的に採り入れる工夫をしている。	リビングは開放感のある広い造りで、日照、採光も良く、季節の飾りつけがされて明るい雰囲気となっています。温・湿度にも注意を払い快適に過ごせる様配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダにベンチやテーブルを置いて日光浴をしたり、お茶を飲んだりできるスペースを設け、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや馴染みの物を配置して、本人が安心して過ごせるよう工夫している。	居室には、利用者の使い慣れた馴染みの物が持ち込まれ、自宅と同じ様な雰囲気作りに努め、利用者が不安なく生活できるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手摺りや浴室・トイレ・廊下など、環境が適しているか見直し、安全確保と自立へ配慮をしている。		